

香川県教育委員会事務局
保 健 体 育 課 長 殿

学 校 名 三 豊 市 立 吉 津 小 学 校
学 校 長 名 藤 田 ま り

令和 2 年度 オリンピック・パラリンピック教育実施報告書

I 事業実施前の課題

- ・ 日常的にスポーツをしている児童とそうでない児童の 2 極化がみられ、体を動かす機会や時間の減少など運動体験不足が懸念される。
- ・ 誰かのために何かをしたいという、「おもてなしの心 (ボランティア精神)」を醸成する。
- ・ 日常生活、学校生活の中で障害者の方と触れ合う機会もほとんどないので、障害者の方に対する理解を深め、共生という考え方を育成していく。
- ・ オリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する知識・理解を深めていく。

II 具体的な取組み

1 活動名 (事前学習) : オリンピック・パラリンピックについて調べよう (車イスバスケ 香西選手について知ろう)

(1) 日 時 : 令和 2 年 6 月 2 2 日 (月) 1 4 : 1 0 ~ 1 4 : 5 5

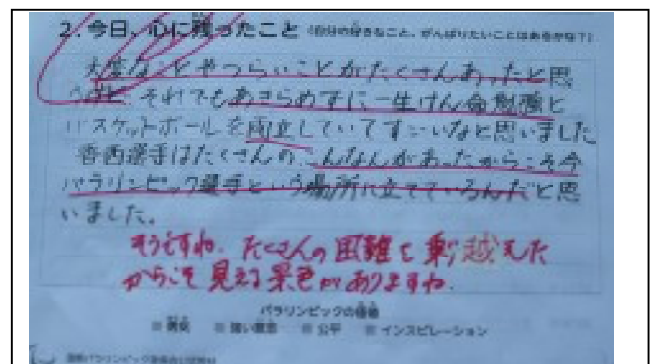
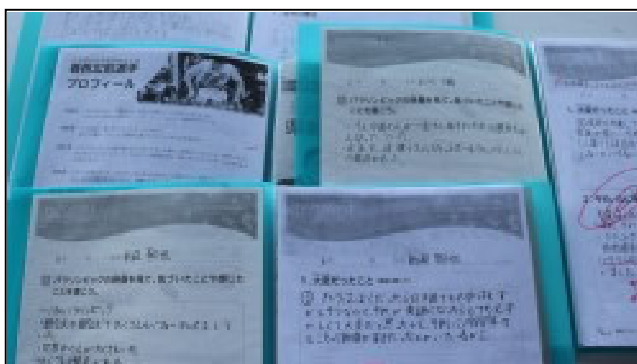
※ 8 月 夏 休 みの 自 主 学 習、9 月 の 総 合 的 な 学 習 の 時 間 も 活 用

(2) 対象者 : 第 6 学 年 3 0 名

(3) 活動概要及び工夫点 (総合的な学習の時間で実施)

- ・ I ' m p o s s i b l e の資料や DVD で香西選手について知り、その生き方から学ぶ。その後、関連図書で、オリンピック・パラリンピックについて調べ、知識・理解を深める。

(4) 活動の様子



【授業後のワークシート】

2 活動名（中心学習）：ゴールボールを体験しよう

(1) 日 時： 令和2年 6月29日（水） 8：30～ 9：15

(2) 対象者： 第6学年 30名

(3) 活動概要及び工夫点（総合的な学習の時間で実施）

- ・ 昨年の学習を思いだし、実際に競技体験をすることを通して、視覚障害者の立場を理解し、共生社会に対する考え方や心の在り方について学ぶ。

(4) 活動の様子



【ゴールボールを体験しているところ】

3 活動名（中心学習）：オリ・パラ新聞をつくろう

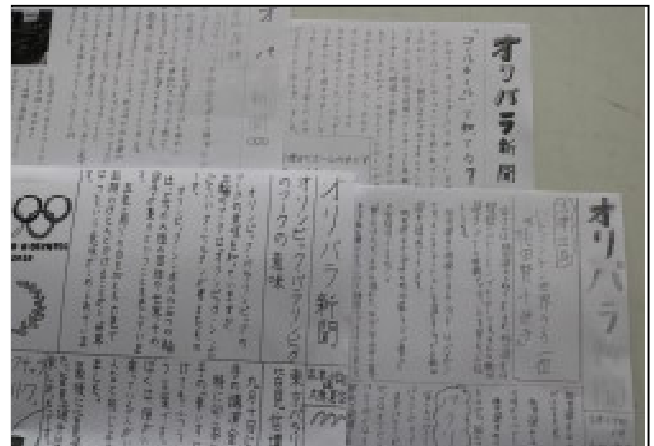
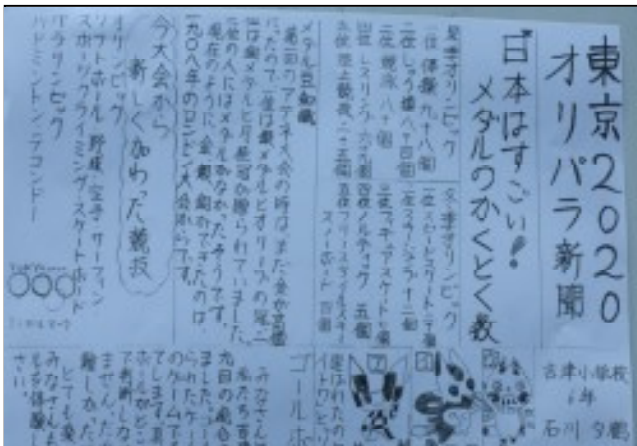
(1) 日 時： 令和2年 9月 8日（火） 13：45～15：30

(2) 対象者：第6学年 30名

(3) 活動概要及び工夫点（総合的な学習の時間で実施）

- ・ オリンピック・パラリンピックの歴史、競技種目、意義、特性、東京オリンピックのマスコット等について調べたことを新聞にまとめることで、オリンピックについての学びを深める。

(4) 活動の様子



【児童が作ったオリパラ新聞】

4 活動名（中心学習）：車イス卓球の皆見選手をお招きしよう

(1) 日 時： 令和2年 9月10日（木） 13：45～15：30

(2) 対象者：第5・6学年 50名

(3) 活動概要及び工夫点（総合的な学習の時間で実施）

- ・ 同じ三豊市出身のパラリンピアンである、車イス卓球の皆見選手の講演を聞き、皆見選手

の考え方や生き方から学んだり、障害をもっている方への理解を深めたりすることができる。

(4) 活動の様子



【皆見選手の講演】



【皆見選手と卓球体験】

5 活動名 (中心学習) : 車イスバスケットボールを体験しよう

(1) 日時: 令和2年 11月17日 (火) 13:45~15:00

(2) 対象者: 第5・6学年 50名

(3) 活動概要及び工夫点 (総合的な学習の時間で実施)

- ・ 車イスバスケットボールを体験することで、車イスバスケットボールに対する興味・関心を向上させるとともに、車イスに乗っている方の立場理解について深めることができる。

(4) 活動の様子



【車イスバスケットボール体験】

6 活動名 (中心学習) : ハーフマラソンにチャレンジしよう

(1) 日時: 令和2年 12月11日 (金) 14:00~15:30

(2) 対象者: 第6学年 30名

(3) 活動概要及び工夫点 (総合的な学習の時間で実施)

- ・ ハーフマラソンの女子の記録にクラス全員でチャレンジすることで、学級の団結力を高めるとともに、オリパラの意義を学んだり、スポーツに関する興味・関心を深める。

(4) 活動の様子



【つなぐバトン】



【頑張った全員でゴール】

Ⅲ 成果と課題

- オリンピック・パラリンピック関連図書・DVDを活用して新聞づくりをすることで、様々な知識（歴史、競技種目、意義、特性、マスコット等）を得ることができた。また、直接は触れ合えない競技者の考えや生き方についても学ぶことができた。
- 同郷の方にパラリンピック候補選手がいることでより身近に感じたり、誇りに思う気持ちをもったりするとともに、その方の生き方から障害者の方に対する考え方や接し方を学ぶことができた。
- 実際に自分たちが競技体験をすることで、スポーツに対する興味・関心を向上させたり、その楽しさを感じたりすることができた。
- アンケートから児童のオリンピック・パラリンピックに対する興味・関心は高まっていることがわかる。誰かのため、社会（学校）のためという思いの向上が6年生による朝のボランティア活動につながっている。
- △ 校内の行事や取組と関連させてうまく価値づけたり、環境（掲示等）を整えたりするところが不十分だった。次年度は、取組を継続・充実させるとともに、本校出身のオリンピック候補選手と交流を図りたいと考える。